



この活動をとおして花の力を改めて感じました。
他の企業さんも巻き込んでいって「まちにわ」の輪を
福岡市内全体に広げていきたいです。

—空港通り沿いの道路植栽帯に、日本最大の花時計を整備していただいておりますが、
この花時計をつくることになったきっかけを教えてください。

花時計をつくった土地はもともと弊社の土地だったんですが、都市高速を整備する計画が立ち上がったときに福岡市にお売りした経緯があります。しかし、都市高のルートが変更したために土地の一部が使われなくなり、長らく未利用のままになっていました。

できるだけ汚くならないように社員で清掃などをしていたところ、弊社の創立100周年のプロジェクトとして何か福岡市や市民の方に恩返しができないかという検討がスタートしました。福岡市に相談したところ、一人一花運動という事業があると話を聞いたんです。福岡市が管理する道路上になるのでいろいろ制限もありましたが、ボランティア花壇として花時計をつくることになり、東光のまち中にある庭（にわ）、“まちにわ”として整備したというのが経緯です。

—“東光のまちにわ”をつくるうえで困難だったことはありますか？

ハード面である花時計の整備は進んでいきましたが、ソフト面である維持管理をどうするかが悩みどころでした。花壇はつくって終わりではなく、その後の花の管理が大変です。企業も積極的に社会貢献していく時代なので、社員にやらせるのは簡単ですが、なにか持続的な仕組みをつくれないう、と考えたわけです。

まずは、花壇を設計いただいたランドスケープ会社の方と検討を進めていき、造園に関する専門的なサポートが必要ということで大



学の先生にご参画いただきました。人が人を呼んでいって、今では複数の大学の先生にプロジェクトに関わっていただいています。また、東光校区の自治協議会にも伺って協力をお願いしたところ、みなさん快くご承諾いただきました。こうして産官学民の共働による“まちにわプロジェクト福岡”として維持管理の枠組みができました。



現在、花壇の維持管理については、日々の清掃などを主に社員が行い、年3回の花の植替えを学生さんや地域の方々と一緒に行っているところです。

ー社員や地域の方の反応はいかがですか？

社内では園芸部が組織されて、花壇の清掃を楽しんでいるようです。自主的に清掃をやってくれている社員も徐々に増えていますね。お昼休みにはベンチに座って休憩している社員もいます。夜はライトアップもしているので、女性社員からは「夜の雰囲気がよくなった」と好印象のようです。また、予想以上に地域の方が好意的に捉えていただき驚いています。自分たちで植えた花がどういう風になっているのか、散歩がてら見に来るのを楽しみにしていただいています。

この活動をとおして花の力を改めて感じました。小さい子どもが“まちにわ”で遊んでいるのを見るとうれしく思います。このあたりはオフィスワーカーの方も多いですが、いつもは通り過ぎるだけの交差点も、綺麗な花壇があれば振り返って見ていただけていて、なにかしらの癒しになっていると嬉しいです。「まちにわ」をつくって本当によかったと思います。



ーこの取組みをとおして地域とのつながりは増えましたか？

これまでは自治会費を支払っているだけで、地域の方とは関わりがあまりありませんでしたが、花壇をとおして地域の方と社員とで交流が生まれました。花の植替え時のイベントでは、自治会長さんがチラシを配って地域の方に呼び掛けていただき、100人近くの方に来ていただきました。我々も、多くの方に来ていただけるように、イチョウの落ち葉を使ったアートづくりなど、子どもも楽しめるような魅力的なイベントを企画しています。

地域の方からは「正興電機があるのは知っていたが、どんな会社か知らなかった。これをきっかけに正興電機のことを知れてよかった」と言っている方がいます。私が近くを歩いていた地域の方から声を掛けられることもあります。弊社が何をしているのかということを地域の人に知ってもらうことはいいことだと思いますし、まちの美化により一層取り組んでいきたいと感じています。

ー活動を継続していくうえで課題はありますか？

ハードとソフトがしっかりマッチしたため、うまく継続できていると思っています。事務局でも「今年こうだったから、来年はこうしよう。」とか「もっと多くの人に来てもらうためにこんなイベントやワークショップをしよう。」など前向きな意見が出ています。ワークショップには福岡市が認定する“緑のコーディネーター”にも手伝っていただいていますよ。



私自身がこの事業を楽しめているというのも、活動を継続するうえで重要なのかもしれません。いまでは地域のお子さんからも「まちにわのおじちゃん」と言われています。私は、整備前からこの場所にあるイチョウの木が大好きだったんです。“まちにわ”をつくる際も、このイチョウの木を残したことで花と緑がうまく調和したと思っています。

とはいえ、継続していく上ではやはり資金面の不安があります。イベントやワークショップを行うとお金もかかりますし、将来の大きなイベントに備えて繰越金をつくっておきたい希望もあります。最近、新しい花壇もつくりはじめたので、予算が足りないのが実情です。

“東光のまちにわ”では基金を創設していて、そのお金で維持管理費を捻出しようと頑張っています。弊社のグループ会社からの資金が多いですが、賛同いただいている社員や地域の方からも個人会員として資金を出していただいています。現在、個人会員は60名くらいになりますが、イベントやワークショップに来ていただいた方に個人会員になっていただくなど、個人会員を増やす取組みを検討しています。

ー企業の社会貢献活動としての花壇づくりについてどのように考えていますか？

弊社の場合、社の本業自体が社会課題を解決していくものなので、入社するときから社会貢献について研修を受けており、当たり前の感覚になっています。

一人一花運動は、花が増えてまちが綺麗になることで心が安らぎ気分もあがる、いい取り組みです。福岡の企業は福岡愛のようなものがあるので、福岡市のまちが綺麗になっていく取り組みは社会貢献活動として相性がいいと思います。「この花壇は〇〇会社が管理しています」と書かれた看板のある花壇を見かけますが、企業にとっても任されたからにはちゃんとしないといけないという意識を持ちやすいのではないのでしょうか。

ー“東光のまちにわ”のような取組みを広げていくために福岡市はどうすればいいでしょうか。

いまは社会貢献をしていきたいと考えている企業も多いと思いますが、フィールドがなく、なにをすべきか悩んでいる会社も多いのではないのでしょうか。そのような中で、ボラン



ティア花壇はすごくいい制度だと思うので、企業にそういうフィールドがあることをもっと知ってもらうことができれば、一人一花運動が広がっていくと思います。

企業にとっては、必要な予算額も重要なので、「このくらいの費用でこれができます」というようなモデルケースを広報の中に盛り込んだりすれば、検討しやすくなります。予算面では、一社ではなく複数社

で取り組めるような仕組みも助かりますね。

また、花壇づくりは専門性も高く、企業の中で中心となって活動できる人材を確保できないことも多いので、福岡市が認定している“緑のコーディネーター”に参加いただくのもいいと思います。そのようなサポート体制が整っていることを広く知ってもらえれば、花壇づくりに取り組む企業も増えるのではないのでしょうか。

別の切り口としては、子どもと一緒に楽しめるような会社の行事は少ないので、植替えのイベントに社員とそのお子さんと呼んで、併せて子どもの職場見学を開催するなど一案です。花を育てたり土をいじったりすることは、情操教育の一環にもなります。会社の福利厚生として、子どもと一緒に取り組めるイベントを検討している企業は多いと思います。

—今後の展望をお聞かせください。

令和4年に花壇を整備してスタートした取り組みですが、植替えのイベントにも多くの方にご参加いただき、今春からは「一人一花スプリングフェス」にも参画しています。幸いなことに花壇の視察にもいろいろな方に来ていただいています。

花壇の管理については、3年間はプロの園芸家に入ってください計画にしていますが、その後は植物園の“ねづくプロジェクト”で育成されているガーデナーの方などが活動できる場になればいいなと考えています。

産官学民による“まちにわプロジェクト福岡”は、東光校区だけでなくいろいろな場所に広げていきたいと考えています。より積極的に推進していくために、専任の人材もつけたいですね。他の企業さんも巻き込んでいって「まちにわ」の輪を福岡市内全体に広げていきたいです。

(お話を伺ったお相手)

株式会社正興電機製作所

経営統括本部総務部部長 兼 事業所マネジメント部部長 有吉 大助

(まちにわプロジェクト福岡 事務局長)

